



平成30年4月 日( )  
校長通心 No.34 校長 馬渡教二

### 「父母であること」 (ペルシアの古い詩から)

あなたは子どもたちに愛を与えることはできるが  
あなたのものの考えを与えることはできない。  
なぜなら子どもたちは  
子どもたち自身のものの考えを持っているから。

あなたは  
子どもたちの身体の世話をすることはできるが  
彼らの魂をそっくり飼い慣らすことはできない。  
なぜなら彼らの魂は  
明日という住み家に息づいているのだから。

あなたは  
子どもたちのようになろうと努めてもよいが  
子どもたちをあなたのようにしようなどと  
してはいけない。  
なぜなら人生は  
後ろ向きに進んでいく  
ものでもないし  
明日のままで  
とどまっているもので  
もないのだから。

## 無目的に生きることぐらい辛いことはない

平成26年4月7日13:00、未知の扉に手をかけた新入生110名の息づかいを体育館中に感じながら無事に入学式を終えることができた。ひな壇に座る新入生たちの真っ直ぐに伸びた背中とその澄んだ瞳を在校生たちが暖かく見守り、歓迎の合唱で迎えた場面に本年度最初の絆のシャフトを感じることもできた。全校生徒321名がそれぞれの学年の新しい集団に飛び込み、本年度がスタートした。すでに学校生活を経験している新2・3年生は、勉強・部活・行事・進路……の抱負だったり目標だったりや胸の奥に秘め…、新入生はまだ見ぬ未知への期待と不安を抱え……。でも、大人だって出会いの多い4月は不安と期待が入り交じるなか、それぞれの熱い想いを、その人なりに位置づけているものである。もちろん、**スタートだから今の集団の自分の立ち位置だとか力の発揮どころがまだまだつかめないかもしれないけれど、「怒の精神」(常に周りのことを思い、語り、行動する)で関わっていけば、すぐに周りの人たちの良さが見えてくる**と思う。4月、偶然に集められた人の集まりが、一年間の様々な文武両輪の取り組みを通し、それぞれの間関係のふくらみの中で「逢って良かった」「逢うべくして逢った」という必然性を感じ取れるぐらいまで、コミュニケーションや生き方のキャッチボールをしていけば、必ず絆のシャフトは強靱になっていく。

「シーシュポスの神話」という話がある。簡単に言うと、神々の怒りを買ってしまったシーシュポスが、大きな岩を山頂に押し運ぶという罰を受けることになる。彼は神々の言いつけ通りに岩を運ぶのだが、山頂に運び終えたその瞬間に岩は転がり落ちてしまい、それを永遠に繰り返すという罰である。無益で希望のない労働ほど恐ろしい懲罰はない！つまり**「無目的に生きることぐらい人間にとって辛いことはない」**という人間の本质を浮き彫りにした話だ。……だからこそ、人は「目標」を持つことが大切で、確かに目標に向かっていくときに身体の奥底から湧きあがるようなエネルギーを出し続けられるような気がする。

そこで、「目的」と「目標」について少し考えてみたいと思う。例えば、建築現場でレンガを積んでいる3人の男に「何をしているのか？」と尋ねたとする。男Aは、「ただレンガを積んでいるのさ」、男Bは、「食うために働いているのさ」、男Cは、明るく顔を上げて「後世に残る町の大聖堂を造っているんだ」と答えたとする。このとき3人の男たちにとっての「目標」は、たぶん一日に何個のレンガを積むか？とか、工期までに自分の担当箇所を仕上げられるか？とか…で共通していると考えられるけれど、「目的」となると、男Aは「無目的」、男Bは「生活費を稼ぐのが目的」、男Cは「歴史の一部に自分が関わり、世の中の役に立つことが目的」となると思う。こう考えると**目的は、言葉が示すとおり、「的(まと)」であり、しっかりした意味や意義づけがされた最終到達地点ととらえることができると思う。目標は「標(しるべ)」であり、目指すべき方向や状態ではあるけれど最終到達地点ではない感じがする。そして、目標は他人から与えられることもありえるけれど、目的は、自分で見つけ出して設定していくもののようにも思えてくる。**

先生たちは、入学してきたみんなを、3年後の最終到達地点で「自立」させたいという願いをもちながら、みんなと関わっている。「自立」というと、人に頼らないで自分の力で生活していくようなイメージがあるけれど、まだ仕事に就いていないみんなにとっての「自立」とは、「自分の進路(生き方)を自分の責任で選択し、そのことに納得して次に進んでいく」ことだと思う。それに向かって先生方も日々の授業や係活動や様々な行事や部活動にみんなとともに汗を流しているのである。3年後の「自立」という「目的」に到達するために、学校の目標だったり、○学年目標だったり、○組学級目標だったり、各班目標だったり、個人個人の1学期の目標だったり……が設定されていくのだと思う。こう考えると**「目的」の達成は未来にあるけど、「目標」の達成は、常に今にあってずっと持続していくもの**だということになる。別な言い方をしたら、「目標」は目的を見失わないための目印であるから、どうしても達成できなければ変更が可能だし、早く達成されたらもう一つレベルアップさせていけばいいのだと思う。そういう意味で、もう一度自分で立てた目標を振り返ってみてほしい。しっかりした目標を設定できたなら、式辞で話した、市川中学校の校章の意味に近づいていけるような気がする。(無限大の記号に市川中の頭文字「I」を組み合わせ、さらに4つの小学校が中心に向かっていく……**4地区のそれぞれの良さを出し合い進化しながらひとつになっていくことで無限の可能性を最大限に発揮していく!**…シンプルな校章だけれど意味は奥が深い!!)

